

恐竜博物館の貝化石研究グループは、北谷恐竜発掘現場の約1億2000万年前の二枚貝化石3種を調査したところ、生きていた当時の模様が保存されていることを発見しました(図1)。この発見により、北谷の二枚貝



図1\_北谷の貝化石の模様(黒いすじ)

このように、北谷の貝化石研究は、今がアツいのです！今後も北谷貝化石研究にぞつぞつ期待！

恐竜博物館設立のきっかけであった、北谷の貝化石たち。そんな彼らですが、最新の研究成果が、有名な科学誌「ネイチャー」の姉妹誌に掲載されました。日本産の貝化石の論文としては初の快挙です。それほどの大発見が、北谷の貝化石には眠っていたのです。

さらに興味深いことに、この化石の模様は現在の淡水二枚貝類の模様とほぼ同じ特徴であることも分かりました(図2)。1億年以上も昔の絶滅した二枚貝の模様が、なぜ現在の二枚貝と同じなのでしょうか？

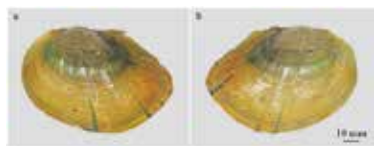


図2\_現生二枚貝の模様(緑色のすじ)

化石の模様は世界最古で日本初、化石記録として世界2例目の事例になりました。これまでの最古の記録を、1億年以上も更新することになったのです。

## 「ガンガンいこうぜ!」勝山ちおこ

新たに着任しました

「世の中に必要とされなかった何かを『H-OPE』へ変える」というコンセプトで日本の地域の方々と協力しながら、廃棄される食材・素材などを魅力的なプロダクトに生まれ変わらせるライフスタイルブランドの立ち上げ準備をしていたときのことでした。

縫製工場の端材を活用したアパレルづくりに関心のある企業が勝山にいらつしやるご聞き、打ち合わせに来てびっくり。じつは事前に「食にまつわるもの、たとえばエプロンや割烹着をつくりたい。できればストリートっぽいいイメージ」という無茶苦茶なご相談をしていたのですが、初回サンプルから想像をはるかに上回る素晴らしい完成度で、その衝撃は今でも忘れられません。

勝山のものづくりの質の高さや人々の情熱にわくわく感が止まらず通っているうちにさまざまな魅力や皆さんの想いにつれ、このたび地域おこし協力隊としてまちづくりに関わらせていただく機会に恵まれました。これから皆さんと一緒に町の魅力をたくさん引き出す企画や発信などに取り組んでいく予定です。どうぞよろしくお願いたします！

縫製工場の残反を活用した「ストリート割烹着」  
ブランドモデル：マリエさん(環境省森里川海アンバサダー)

H-OPE Online Store  
Instagram @h\_ope.work

## JCHO-Column

### がんに対する免疫療法

福井勝山総合病院 消化器内科部長 大藤和也

がんに対する免疫療法」と聞くか、どのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。つい10年ほど前は、あやしい？本当に効くの？という意見も多かったかと思えます。ですが、近年のがん治療は免疫療法を中心に大きく様変わりしているのをご存知でしょうか。

がんに対する3大治療①手術療法 ②化学療法(抗がん剤) ③放射線療法 についてはよくご存知かと思いますが、免疫療法は様々ながんに対する効果が示され、第4の治療として注目されています。

これまでの治療法では治すことのできなかつた進行したがんに対しても、大きな治療効果がえられる場合もあり、近年ではがんに対する薬物療法の中心となつてい

がん免疫療法とは、免疫を担当する様々な細胞が自分「自己」と自分でないもの「非自己」を見分けて、ウイルスや細菌といった外敵「非自己」が侵入したときに、それらをやっつけて身を守る防御機構です。がん細胞は、もともとは自分の細胞ですが、がんになる過程で

自分の細胞とは異なる性質を有するようになり「非自己」と認識されて免疫細胞によって排除されることが知られています。

がん免疫療法と一口に言っても様々な治療法が存在します。最も注目されているのが免疫チェックポイント阻害療法で、多くのがんで保険診療となっております。

免疫細胞が「非自己」であるがん細胞を攻撃する際に、一般にはブレーキがかかっており、がん細胞はその攻撃から逃れようとして、そのブレーキをはずして免疫細胞の攻撃を増大させるのが免疫チェックポイント阻害療法です。

がん免疫療法と他の治療法の組み合わせ「複合がん免疫療法」が盛んに開発中でさらなる効果が期待されています。

しかしながら、必ずしもこれらの治療法が有効とは限りません。がん治療の基本は早期発見・早期治療です。ほとんどのがんは初期の段階では無症状で、知らない間に進行します。

がん検診やドックでの早期発見に心掛けましょう。

## ふるさとを訪ねて

### 地域文化を掘り起そう

#### シリーズ「市内の小学校」 ⑤

市史編纂室 山田 雄造

### 野向小学校

野向地区には明治10年(1877)までに次の三つの小学校が設立された。明治6年龍谷区に青郊小学校が、同区と竹林区(後の野向村)、さらに布市・清水島の2区(後の荒土村)の計4区で設立された。

同6年に北野津又区に、同区と横倉の2区で芳浜小学校が設立された。しかし横倉区は同10年横倉小学校として分離独立、その後、昭和41年(1966)に野向小学校の分校となった(昭和47年廃校)。一方、北野津又の生徒は明治23年に上記の青郊小学校に通学することになった。

翌7年には深谷区に、同区と薬師神谷・牛ヶ谷・聖丸の4区(後の野向村)、中野侯・杉山の2区(後の北谷村)の計6区で幽深小学校が設立された。中野侯・杉山は通学距離を考慮して中野侯に分教場が設けられ、更に同20年生徒の通学を考慮して、それぞれ両区に分教場を設置することが認可された。幽深小学校も芳浜小学校と同様同23年に青郊小

校に併合された。

青郊尋常小学校は明治24年新築され、同27年高等科が設けられ尋常高等小学校となる。その後、同39年3月までは青郊小学校の印で卒業証書が出されているが、翌年の3月には野向小学校印となつている。39年中に校名の変更があったものと考えられる。

写真1は戦前に使用されていた野向尋常高等小学校の校章印の入った時計で、恐らく大正15年(1926)に雨天体操場落成を記念して贈呈されたものであろう。写真2は昭和8年頃の校舎である。第二次世界大戦後の昭和22年、新学制により龍谷区に野向小学校が、また新制の野向中学校も併せて設立された。



写真1 校章入りの時計



写真2 昭和8年ごろの校舎